

大阪市で
先生になろう!

先輩教員からのメッセージ



大阪市教育委員会

大阪市教員採用
ポータルサイト ▶

<https://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu230/kyousai/index.html>



大阪市教員採用
Instagram ▶

<https://www.instagram.com/osakasikyousai/>



大阪市教員採用 X ▶

<https://x.com/osakasikyousai>



大阪市で 先生になろう!

子どもたちの未来に繋がる!

子どもたちとともに成長できる!

あなたの笑顔で

子どもたちの未来を一緒に育みませんか



小学校教諭

大阪市立堀江小学校
北村 早織 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

母が幼稚園の先生をしていたことや、弟が2人いることから、自分の年よりも小さい子どもの面倒をみることは大好きで、物心がついたときから「先生」という職業に憧れがありました。

「小学校教諭」になりたいと決意したのは、小学校6年生の時の担任との出会いです。6年生の時の私だけを見るだけではなく、5年生のころの私の状況も把握し、私の性格や特徴を先生自身の目で見てくださったことがとても嬉しかったことを覚えています。このような経験から、その先生と同じ場所、同じ学校で働きたいという夢を持つようになりました。

いつしか私もそんな人になりたいと強く思い、教職をめざしました。

教員になって感じる「魅力」は…

子どもたちの成長を一番近くで見られることです。今、私が担当している学年（6年生）は、4年生の時から一緒なので、4年生の時と今を比べると、できるようになったことがたくさん増えたと思います。4年生の時は、先生の指示がないと動けなかったり、後先考えずに行動してしまったり、担任の先生方が指導している姿を見かけました。今でも課題はありますが、先生の指示がなくても考えて行動できる場面が増えてきたように感じています。子どもたちにすぐ変化があらわれるわけではありませんが、できなかったことができるようになっていく過程を見ることができるのは教員の特権だと思います。

大阪市の子どもたちは、とても距離が近く親しみやすさがあると感じています。

これから教員をめざす方へ…

私も、1年目は毎日とても緊張していました。でも、緊張以上に子どもたちと過ごす時間がとても楽しい仕事です。うまくいかないときやしんどいことがないわけではありませんが、一生懸命子どもたちと関わっていると、子どもたちに必ず伝わります。「先生、ありがとう」と何気なく言ってくれた一言に救われ、嬉しくなる場面がたくさんあります。また、一生懸命仕事をしていると、必ず助けてくださる先生方が周りにはたくさんいらっしゃいます。

子どもたちと一緒に過ごしている自分を想像して、「教員になりたい」という気持ちを大切に頑張ってください。

中学校教諭 (数学)

大阪市立下福島中学校
武田 弘希 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

小さい時から、子どもが好きだったので、幼稚園や小学校の先生も視野にはあったのですが、高校まで進んで、数学を学んだり、部活動のサッカーを学んだりする中で、やっぱりこれを教えたいなと思いました。大学に進み、教育実習を中学校で経験し、中学校の教員をめざしました。

大阪市の教員になったのは、当初、講師募集で大阪市を選んだことがきっかけです。大阪市で講師として働くなかで、先生方がすごく温かく、大きな市だからこそ、いろいろな面でのつながりが密であると感じ、一緒に力を発揮したいと思い、大阪市の教員をめざしました。

教員になって感じる「魅力」は…

教員は、子どもたちと過ごす時間がとても長く、場合によっては、保護者の方よりも長い時間、一緒に過ごしているかなと思います。

その中で、ほんの小さなことでも、成長に気づけたり、なんてことない話で、子どもたちと笑いながらご飯を食べたり、休み時間を過ごしたりという、自分が子どものころ、当たり前だったことが、大人の立場となって、子どもたちと一緒に時間を過ごして、自分自身も成長できているなという実感を持てることが一番のやりがいになっています。

しんどいこともあります、すべてがよい経験と感じています。自分の糧にしていけるためにも、先輩の先生方にお聞きしたり、自分なりに形を変えたりしながら、子どもたちに還元していくことで、乗り越えることができている。

これから教員をめざす方へ…

子どもたちと毎日の時間を一緒に過ごせるということが一番のやりがいです。

短い時間でも長い時間でも、子どもたちの成長を間近で感じられることは、この職業をしている中で、一番の楽しさであり、やりがいを感じられる部分だと思います。

卒業して何年後かに、「やっぱり、〇〇先生の言っていることをやっついてよかったな」とか「あの時これをやっついてよかったな」と思ってもらえるという、その子どもたちの成長する中に何か一つを残せるということは、この仕事の一番のいいところかなと思っています。

ぜひ、みなさんも、子どもたちの成長の中に、何か痕跡を残せるような先生になれるように、頑張ってください。

中学校教諭 (特別支援学級)

大阪市立住吉第一中学校
錦織 佑香 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

中学・高校のころに出会った先生方が、優しく、時には厳しく、私たちいろいろなことを楽しんでくださる先生方でした。おもしろいとか優しい以外にも、ダメなところはダメ、なぜそれがダメだったのか、その後、自分たちがどう行動していたらいいのかということ、すごく向き合いながら教えてくださったので、すごく人を変えられる仕事だと感じ、自分もこういう先生になりたいなと思いつきました。

私自身、理解できた瞬間の喜びや、仲間と協力して乗り越える経験が学びの原点でした。その喜びを次の世代にも味わってほしいと感じています。

「学ぶことの面白さや達成感を子どもたちに伝えたい」「生徒一人ひとりが自信をもって挑戦できるように支え、学びを通して成長する姿を見守れる教員になりたい」と思い、教職をめざしました。

教員になって感じる「魅力」は…

生徒の成長を間近で感じられることです。できなかつたことが少しずつできるようになったり、苦手を乗り越えて笑顔を見せてくれたりする瞬間に大きなやりがいを感じます。

自分の言葉や関わりが子どもの力になると実感できるのが一番の魅力です。自分が「これどうかな」「あれどうかな」と考えてやってみたことが、ピタッとはまったときは、すごく嬉しいし、はまらなくても、「どんなのがいいのだろう」と探し、それがまたはまったら嬉しいです。また、私自身が成長させられる場面もたくさんあります。相手を思いやる気持ちや伝える力の大切さを学びました。

子どもたちはもちろんですが、先生方ともコミュニケーションを取り、チームで喜びや達成感を分かち合えることも、教員ならではの魅力だと思います。

これから教員をめざす方へ…

教員をめざす道は、きっと楽しいことばかりではありません。悩んだり、壁にぶつかったりすることもあると思います。

うまくいかないこともあります、生徒の笑顔や「ありがとう」の言葉が何よりの励みになります。その一つひとつの経験が、子どもたちの気持ちを理解できる力になると思います。

大切なのは、「子どもたちと共に成長したい」という気持ちを忘れないことです。

悩んだときは一人で抱え込まず、仲間や先輩を頼ってください。頑張ってください。

幼稚園教諭

大阪市立中大江幼稚園
平岡 志帆 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

小学校2年生の時に、年の離れた弟が生まれたことが大きなきっかけです。弟と遊んだり、毎日お世話をしたりしているうちに、自然と将来は子どもに関わる教職の仕事に就きたいと思うようになりました。私自身も大阪市の幼稚園出身で、泥んこ遊びをしたり、一輪車を友だちと挑戦したりして楽しかったことを今でも鮮明に覚えています。

大学生の時には、大阪市の幼稚園で2年間のボランティアと、1ヶ月の実習を経験しました。その経験が大阪市の教員をめざす大きなきっかけとなりました。実際の現場に長期間関わらせていただき、先生方が子どもたちのありのままの姿を受け止め、一人ひとりに寄り添った保育をされている姿にとっても感動し、「私もそんな保育ができるようになりたい!」「大阪市の先生として働きたい!」と強く思いました。

教員になって感じる「魅力」は…

教員の魅力は、子どもたちの小さな成長を日々感じられることだと思います。

子どもたちの可能性やパワーには毎日驚かされています。大人では思いつかないような素敵な発想をたくさん秘めていて、目を輝かせて全力で楽しんだり、友だちと笑ったりしている姿を見ると、私も自然と笑顔になります。「どこに面白さを感じているのかな?」と子どもたちと同じ目線に立つと、私も子どもたちの戻ったようにワクワクしたり、日々の子どもの姿から保育がどんどん変化していきたり、この仕事だからこそ感じられる魅力がたくさん溢れています。

目の前の子どもたちのキラキラとした笑顔や全力のパワーを見ると、「今日も頑張ろう!」と、私自身もたくさんの元気をもらっています。

これから教員をめざす方へ…

教員という仕事は、自分自身もたくさん成長できる仕事だと思っています。

正解のない仕事だからこそ、日々悩むこともありますが、それでも子どもたちと関わる中で、「ああ、自分もこんなことができるようになったな」と感じる時があり、これからも子どもたちと共に育っていききたいなと思っています。

大阪市の先生方は温かく見守ってくださる方が多いので、一緒にチームとなって頑張れる環境であると私は思っています。

ぜひ、みなさんと働けたらなと思っています。応援しています。

養護教諭 (幼稚園)

大阪市立西中島幼稚園
大久保 里紗 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

私は幼いころから、漠然と先生という職業に憧れを抱いていました。中学生の時に、小学校で職場体験をしたことがきっかけで、将来は子どもと関わる仕事がしたいという思いが強まりました。高校生になり進路を考える中で、子どもたちの前に立って指導するよりも、陰からそっと支える存在になりたいと感じるようになりました。特に、子どもの心のケアに関わる仕事に魅力を感じ、養護教諭という職業を志すようになりました。

私は、生まれも育ちも大阪で、小学校、中学校、高校と大阪市の学校に通いました。出会った先生方が、子ども一人ひとりに寄り添ってくださる先生たちで、とても温かく子どもたちを見守ってくださったことが、すごく印象に残っています。

私もそんな先生になりたいなと思い、大阪市の教員を志望しました。

教員になって感じる「魅力」は…

幼稚園の養護教諭は、小学校・中学校と比べて、子どもたちと、とても距離が近いので、その分、成長を間近で見られるのが、大きな魅力だと感じています。

日頃から子どもたちと関わることで、「どんなところが健康課題かな」「どんなことに子どもたちは困っているのかな」というように、普段の関わりの中から、健康課題を見つけ、子どもたちの実態に合わせた保健指導をするように心がけています。

保健指導を実施したことで、子どもたちが伝えたことを意識して生活していたり、子どもたちの困りごとが解決したりしている様子を見ると、「養護教諭になってよかったな」と思います。

これから教員をめざす方へ…

養護教諭は、学校園に1人いることが基本的に多いので、やっぱり「1人でやらないといけない」「完璧にしないとイケない」という気持ちが、私も最初はありました。しかし、実際に働いてみると、周りの先生方や、同期・先輩の養護教諭のみなさまと相談し合い、たくさんの方の支えを受けながらと働くことができている。

子どもたちの笑顔や成長を間近で見られるのは、何よりのやりがいです。教員採用試験や教員免許の取得など、大変なこともあると思いますが、自分が努力した分だけ、自分の力になると思うので、最後まで諦めずに頑張ってください。一緒に、先生として働ける日を、心から楽しみにしています。

養護教諭 (小学校)

大阪市立堀江小学校
大塚 柚季 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

私が養護教諭をめざした理由は、自身が、病気を理由に、学校に登校できなかったという時期があり、それをきっかけに、当たり前前日常を、当たり前前に過ごす、そんな普通の日常をサポートできたらなと思ったからです。病気であったり、怪我であったり、時には持病を持った児童の当たり前前日常をサポートしたいと今でも思っています。

また、大学時代、大阪市教師養成講座を受講し、そこで出会った同期の養護教諭や、指導養護教諭の先生、さらには、大阪市の学校園での現場実習として行かせていただき出会った先生方とのつながりなどを通して、この方たちと一緒に働きたいという気持ちが大きくなりました。

教員になって感じる「魅力」は…

養護教諭の魅力として一番に感じることは、横断的に全学年の児童と関わりながらその成長を継続的に見守ることができることだと思います。全学年を見守り、全校児童に知られている教職員は学校の中でも数少ない存在です。そのような存在として、校内で見かけて声をかけてくれる児童の姿や、学年が変わり成長した児童の姿、再び保健室を訪れてくれる卒業生の姿を目にすると、全校児童の学校生活の一部に関わることができていることを実感し、嬉しく思います。

また、大阪市は都市部ということもあって、非常に多様な児童が登校している現状にあります。その中で、日々、多様なケースにであうことは、自身のスキルアップにも直結すると思っています。いろいろな子どもに接して、いろいろな経験を積めることも魅力です。

これから教員をめざす方へ…

養護教諭として、学校で働くということは、自分自身、成長できる、そして、子どもたちの成長をそばで見守ることができる環境に身をおけるといことだと思っています。

児童を笑顔にするはずが、気がつけば児童に笑わせてもらい、元気をもらっている自分がいます。もちろん、日々の業務の中でどうすればよかったか反省したり悩んだりすることもあります。養護教諭としてこうしたいという思いをそのまま子どもたちに届けられる、試行錯誤しながら自分も人として成長することができる仕事です。

あなたらしさ、こんな養護教諭になりたいという思いを持って、一緒に働けることを楽しみにしています。

栄養教諭

大阪市立南住吉小学校
渡邊 咲枝 教諭



教職をめざした「きっかけ」は…

私は、小学生の時の担任の先生がとても好きで、その時期から学校の先生という仕事に憧れがありました。

そのころは、「何の」先生になるかはあまり具体的に考えていませんでしたが、高校生の時に家庭科の授業で、食べ物の栄養のことを学んだ時に、「とても楽しい」「自分の生活に、すぐに活かしていいな」と思ったのがきっかけで、栄養士という道も視野に入れて考えるようになりました。その中で、小学生のころに楽しく栄養指導を受けたことを思い出し、「学校でも働ける栄養士がいるんだ」「私も楽しく印象に残る栄養指導ができる栄養教諭になりたい」と思い、栄養教諭をめざすようになりました。

教員になって感じる「魅力」は…

子どもたちとの関わりの中で、「今日の給食おいしかった」と言ってもらえたり、「これ苦手だったけど食べれるようになった」と教えてくれたり、直接教えてくれることはなくても給食を食べている様子を見て、子どもたちの成長を身近で感じたりした時に「頑張ってたよ良かった」とやりがいを感じます。

また、子どもや保護者のみなさま、同じ学校の先生方、近隣校の先生方、栄養教諭の先生方、給食調理員の方々など、多くの人と関わることで、いろいろなことに気づかされ、学び、日々、自分自身が成長できることも魅力の一つです。

これから教員をめざす方へ…

栄養教諭は、栄養教諭だからこその経験がたくさんあります。栄養教諭の免許を持つことで、さらにやりたいことの幅が広がると思います。

栄養教諭の免許を取るためには、大学で教職課程の単位を取る必要があります。栄養教諭として働くまでには教員採用試験の勉強や対策に取り組むことも必要です。教員採用試験の倍率は高く、大変なこともたくさんあります。それでも、それ以上にやりがいのある仕事で、私は栄養教諭になって良かったと思っています。

栄養教諭として働き、子どもたちの関わりの中で、自分自身も成長できます。

栄養教諭になろうか迷っている人がいたら、ぜひ、栄養教諭をめざしてほしいです。一緒に働きましょう。

大阪市のさまざまな取

教職員がいきいきと働くことができる環境 「働き方改革の取組」について

採点支援システムの導入

授業をする中で、自動採点システムの充実というところでは、シンプルな事務にかかる時間が短縮されているため、その分、子どもたちとも過ごす時間を考えたりとか、データをまとめたりという点で、ICTの充実は、有効だなと感じています。データをまとめやすいだけでなく、子どもたちも受け取りやすいというところがあるので、すごく助かっています。

欠席等連絡アプリの導入

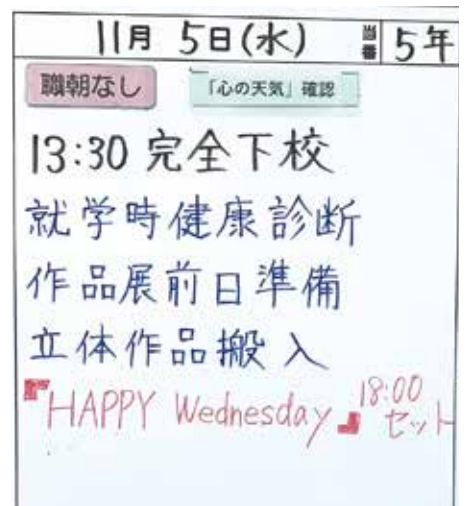
欠席等連絡アプリは、養護教諭としては、朝の健康観察を一括して、すぐに保護者の方や子どもたちが入力した体調の状況を見ることができるだけでなく、学級閉鎖の判断等もスムーズにできる材料として活用できています。学級閉鎖中には、保護者の方に健康状態を尋ねるアンケートを送ることもできるため、緊急事態にも対応ができると感じています。



勤務時間の徹底

毎週水曜日は、必ず管理職も含め「18時に絶対帰る」という取組を学校全体ですべてしています。(一例です)

教材研究も含め、仕事は無限にある中で、時間を区切ってもらえることは、働きやすいと感じています。



安心して教員生活をスタートするための取組 「採用前研修」について

大阪市では、本市で初めて教壇に立つ新規採用の教員等が、年度当初から安心して円滑な教育活動を行うことが出来るよう「採用前研修」を実施しています。

受講者の声

教員採用試験に合格した後に受ける研修ということもあって、実感が湧く瞬間というか、「あ、自分ってこう研修を受けさせてもらってるからこそ、この4月から自分が学校に勤務して、先生という名前がつくようになるんだ」ということをすごく感じる研修でした。これからの先生としての立ち振る舞い方などを見直す場面になったので、すごくいい機会だったなと思っています。

受講してみて、内容は、やっぱり難しいところもあって、「これからもっとも勉強しなきゃいけないな」と思いました。採用前研修で、自分と同じ1年目の方と出会えて会話できたことで、今でもその方たちと話したりするので、そのようなコミュニケーションをとることができたことがよかったなと思います。

4月からすごく覚えることが多かったのですが、講座を受けることによって、前もって知識を得ることもできるし、それだけではなく、他の先生方と出会って話し、仲良くなれてよかったです。



組についての先輩の声

「チーム学校」としてみんなで子どもたちを支える体制について

さまざまな専門スタッフの配置

部活動指導員の方は、異なる視点やより専門的なところで指導して下さるので、そのような指導を受けると子どもたちの姿が違ったり、学校生活とはまた違ういい顔を見せてくれたりもするので、私も、部活についての負担は減りつつも、子どもの成長を見ることはできているので、すごくいいなと感じています。



スクールサポートスタッフの方以外にも、中国語のサポーターの方も来てくださっています。中国語しか話せない児童がおり、保健室に入室してきた時の細かな問診や、中国語しか話せない保護者の方とのやりとりの中で細かなニュアンス、聞き取れないことを中国語サポーターの方が間に入ってくださいすることで、すごく業務として負担軽減しています。何より子どもたちにとって、安心して学校に通える環境を整えることができているのも、さまざまなサポーターの方が入ってくださっているからこそなのかなと痛感しています。



教職員のコミュニケーション

教職という仕事は、大変だなと思うこともありますが、でも、「楽しいな」とか「自分の前向きな気持ちを支えてくれるのはやっぱり子どもだなあ」と思うことがたくさんあります。子どもに笑わせてもらったり、一緒に働く先生たちと力を合わせて保育に取り組んでいます。子どものことだったり、日々のちょっとしたことも他の先生と共有することは、子どもたちと一緒に支えていくという上で大切ななと思っています。



子どもたちの笑顔やパワーにすごい元気をもらえることと、いつも周りの先生方にたくさん質問し助けていただいていることが、自分の頑張るエネルギーになっています。「去年はどんな姿でしたか?」「今年はこうなってるんですけど、どうしてましたか?」など、たくさん教えていただいて、連携をとれるようにしています。

特別専科教諭を経験した先輩教員からのメッセージ



大阪市立
南住吉小学校
大藪 歩夢 教諭

初め、特別専科教諭と聞いた時は驚きました。しかし、自分が5年生の算数の授業を担当した時に、授業づくりの場面で、子どもたちが自分の授業に対して興味をもってくれるためにはどうしたらいいのかということが、自分は分からなかったのですが、周りの先生に教えていただくことができました。その経験が、2学期から1年生の特別支援学級の担当になった今、子どもたちに興味をもってもらうためにはどのようにすればいいか考える時に、とても役に立っています。他の先生方の授業から学べるということは、担任になってからではなかなかできないと思うので、勉強する時間をいただけたと思っています。



大阪市立
堀江小学校
岡本 緯吹 教諭

初めは、特別専科教諭として、自分がどのような1年目を送るのかということに不安はありましたが、さまざまなこと経験させてもらっています。いろいろな学年に関わることで、担任とは違った嬉しさや楽しさを見つけることができました。

特別専科教諭と聞いて、不安な気持ちになる人もたくさんいるとは思いますが、自分はこの制度で産休に入られた先生のかわりとして、2学期から2年生に入ったというところで、産休に入られる方はすごく入りやすかったと思いますし、そこに特別専科教諭という立場の僕がいたから、すぐ変わることができたのだと思います。働きやすい場になるために、すごくいい制度だなと実感しています。



大阪市立
住吉第一中学校
三島 愛香 教諭

私は、1年目に特別専科教諭として勤務しました。担任を持たず、他の先生方の授業と一緒に学べたことは、担任を持つことに不安があった私にとって大きな支えでした。

英語だけでなく他教科の授業からも学ぶ中で、授業づくりや生徒との関わり方について視野を広げることができました。

年度途中で学校を異動し寂しさも感じましたが、新しい環境で多様な子どもたちと出会えたことは、自分の成長につながったと感じています。

教員という仕事は、日々、生徒と関わることができ、楽しさだけでなくやりがいも感じられる仕事であると思っています。

大阪市の学校園の働き方ビジョン

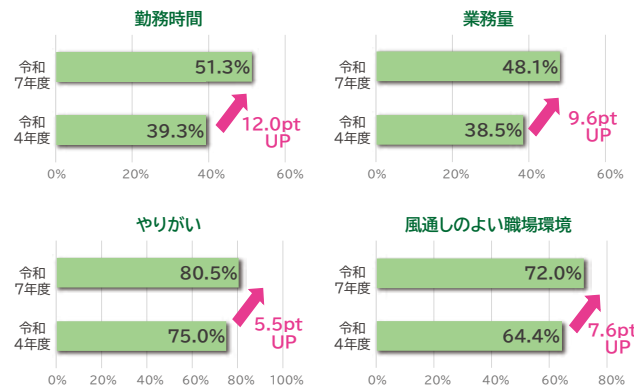
大阪市は、令和8年1月に「教職の魅力向上方針」を策定し、教員の採用から退職まで、誰もが「働きやすさ」と「働きがい」を実感しながら自己実現できる職場をめざしています。教員一人ひとりが、いきいきと子どもたちに向き合い、それぞれの熱意と専門性を発揮して、すべての子どもたちへのより良い教育を実現できるよう、取り組んでいます。

大阪市では、学校園での働き方改革の効果を確認するため、毎年、教職員のアンケートを実施しています。

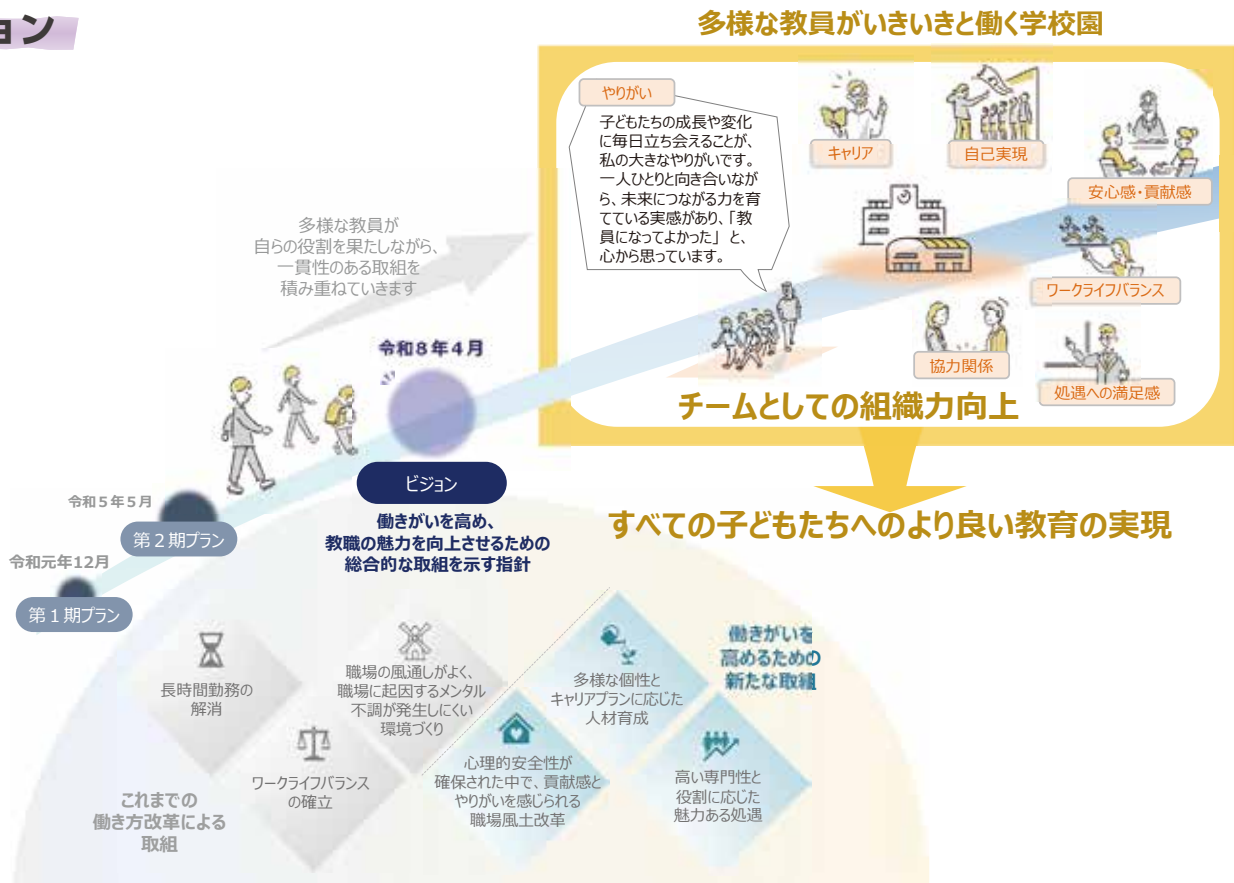
時間外勤務の減少や、育休の取得が伸びるなどの改善に加えて、働き方満足度についても、働き方改革に関する取組の成果が表れてきています。

これに満足することなく、今後も、引き続き学校園現場の声を受け止め、これまでの取組を継続・発展させるとともに、教員一人ひとりの働きがいを高めるための新たな取組を進め、教職の魅力向上させる総合的な取組を推進していきます。

教員の働き方満足度（肯定的回答）



ビジョン



アクションプラン（一例）

◆本務教員による欠員補充制度（特別専科教諭の配置）

特別専科教諭は、年度当初の勤務校では学級担任をもたず、専科教諭や副担任、授業補助を中心に受け持ち、年度途中で欠員が発生した場合には、その学校へ代替教員として配置され、学級担任などの業務を担います。新規採用者の一部を年度途中の欠員補充要員として配置しており、新規採用者が先輩教員から知識や技術を習得する機会にもつながっています。

◆キャリアプランに応じた人材育成と教員の自己実現の支援

キャリアステージや課題に応じた研修を実施し、教員の専門性を高めるとともに、意欲的に職務に取り組み、自身の成長を実感できる教員の育成を図ります。また、研修で得た知見を学校組織全体で共有・活用し、互いに高め合い学び合う教員集団づくりをめざします。

◆学校園における課題解決への支援

スクールロイヤー事業を活用した法的・心理的視点での助言やこれまでの事例をもとに対応する際の要点等を示した事例集の配付、課題に応じた研修実施などによる学校園における課題解決力の向上に取り組めます。

◆その他の取組

- ・欠席連絡等アプリや採点支援システムの運用
- ・スクールサポートスタッフ、ワークライフバランス支援員等の配置
- ・若手教員への組織的な支援
- ・教員の勤務時間に関する意識改革や適正な打刻の徹底
- ・教員の多様なキャリアプランや希望の実現に向けた支援
- ・ストレスチェックを活用した職場環境改善 等